

活動成果報告書

平成25年度（第17回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

がん検診受診率向上への取組み

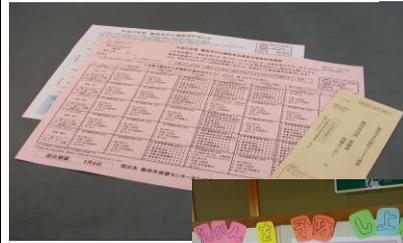
～地域健康ケア計画に基づく「がん」対策～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

飯田市保健福祉部保健課

代表者：小林 洋子

がん検診申込書と検診案内



勤務先：飯田市

所 属：保健福祉部保健課

所在地：〒395-8501

長野県飯田市大久保町2534番地

T E L：0265-22-4511

F A X：0265-53-8867

E-Mail：icl437@city.iida.nagano.jp



健康フェスティバル

◇活動方針

飯田市は中央アルプスと南アルプスに囲まれ、天竜川に沿って南北に広がる伊那谷の南部に位置し、豊かな自然とすぐれた景観、四季の変化に富んだ暮らしやすい気候に恵まれた、人口約10万5000人の市である。また、飯田下伊那を圏域とする定住自立圏の中心都市宣言を行い、地域医療の充実や産業振興など周辺町村と互いに連携・協力を図っている。

飯田市のがんによる死亡割合は、全死亡の23.5%（H22）であり、昭和60年から死因の第1位である。しかし、がん予防の第一歩であるがん検診受診率は決して高くなく、胃がん検診を例にとると、平成18年度10.2%が平成22年度7.6%と減少。この原因は、平成20年度から特定健康診査が開始となり、それまでは同日に受診可能であった特定健診とがん検診の同時実施が難しくなったことや検診受診者の固定化などが考えられる。

そこで、がん検診受診者を増やすために、平成22年度から「飯田市地域健康ケア計画」に基づき、がん検診受診率向上を目標とする取り組みを始めた。

活動成果報告書

◇活動内容と成果

飯田市では、平成 22 年度に「市民総健康」「生涯現役」をめざした独自計画として「地域健康ケア計画」を策定した。「健康」をキーワードに、保健福祉分野の施策や事業をつなぎ、一体的な取組を展開するためのアクションプランである。行政のみならず、まちづくり委員会、企業、NPO 等の多様な主体と協働して健康福祉像をめざしている。

この「地域健康ケア計画」では、特に集中的に取り組むべき内容を重点プロジェクトとして位置づけており、そのひとつに「家族ぐるみで取り組む『がん』対策」を掲げている。(図 1)

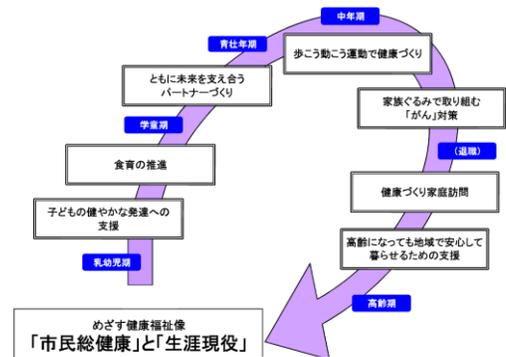


図1 地域健康ケア計画
ライフステージから見た重点プロジェクト

1. 「家族ぐるみで取り組む『がん』対策」の具体的な取り組み

①がん検診申込方法の改善

- ・がん検診の申し込みは、平成 22 年度までは、組合（自治組織）回覧で検診希望者のみ申し込む方法であったが、平成 23 年度からは、「がん検診申込書」を世帯ごとに送付するように改めた。
- ・がん検診申込書には、検診対象者の名前と対象となる検診の種類（胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん・肺がん）を明示した。
- ・申込書には「市の検診を申し込む」「他で受ける」「受けない」などの選択肢を設け、○をつけることで記入方法を簡略化した。

②健康づくり家庭訪問事業での対象者の把握と検診受診勧奨

地域健康ケア計画では、保健師の活動としての家庭訪問も重点プロジェクトのひとつに掲げている。

平成 22・23 年度はモデル地区での全戸訪問、平成 24・25 年度は退職などで生活環境が変化する時期にあたる 62 歳を対象とした家庭訪問を全市で実施した。62 歳の家庭訪問事業では、市内約 39,000 世帯のうち各年度で約 1,000 世帯に訪問し、検診受診勧奨も行っている。

さらに、従来から行っている 2 ヶ月児訪問時にも、併せてがん検診対象者の把握と検診受診勧奨を行っている。(年間約 1,000 世帯)

③広報活動の強化

がん検診についての広報・啓発をさらに強化するため、従来から行っている広報紙への乳がん検診についてのお知らせや自己触診法の掲載をした。年 1 回開催している健康フェスティバルにおいては、検診コーナーを設け、がん検診受診の呼びかけをした。

また、市のケーブルテレビによる「テレビ広報」では、がん検診受診による早期発見・早期治療の大切さを伝えるため、検診によって初期がんが発見された方に本人の了解を得て出演していただいた。

④自治組織等地域ぐるみの取り組み

飯田市内 20 の地域それぞれに自治組織である「まちづくり委員会健康福祉委員会等」がある。がん検診申込書の回収取りまとめには、地域の健康福祉委員の皆さんに自主的な取り組みをいただいた。

活動成果報告書

2. 取り組みの成果

①がん検診申込率の向上

各種訪問を通して、がん検診の申込率が向上した。（表1）

市の保健事業の啓発や健康づくりのアドバイスを個別訪問により行った保健師活動の成果である。

（表1）健康づくり家庭訪問によるがん検診申込率

	H23 年度	H24 年度
62 歳 がん検診申込率（胃がん検診）	45.6%	52.7%
62 歳 がん検診申込率（大腸がん検診）	46.6%	52.1%

②がん検診受診率の増加

がん検診全体の受診者数が約2倍に増加した。

胃がん検診推計受診率は、平成22年度7.6%が平成23年度17.3%に、大腸がん検診では、平成22年度11.7%が平成23年度29.0%に、それぞれ大きく増加した。（表2）

（表2）がん検診受診者数と推計受診率

		胃がん	大腸がん	肺がん	子宮頸がん	乳がん
受診者数 (推計受診率)	H22 年度	2,545 人 (7.6%)	3,945 人 (11.7%)	7,310 人 (23.3%)	1,750 人 (15.4%)	2,677 人 (27.5%)
	H23 年度	5,687 人 (17.3%)	9,268 人 (29.0%)	8,121 人 (27.9%)	2,387 人 (19.5%)	4,748 人 (28.7%)
	H24 年度	4,425 人 (13.6%)	8,508 人 (27.1%)	8,359 人 (28.7%)	2,015 人 (20.8%)	4,103 人 (30.5%)

飯田市のがん検診受診率が低かった理由としては、市民に市の事業が十分に認識されていなかった、どの検診を受けることができるかの市民への周知が不足していたことなどが想定される。世帯ごとに申込書を送付する方法に改めたことにより、がん検診の内容が個人に認知されたと考えている。

また、申込書の回収率を地区ごとに示したことにより、地域の健康福祉委員さんが回収率を上げるために頑張っていた。このように、市民がお互いのがん検診受診を呼びかけるなど、地域ぐるみの活動が広がってきている。

◇今後の計画

①がん検診申込書の回収率は、この3年間50%台で推移しており、約4割の方は受診状況の把握が出来ていない状況であることから、未受診理由の把握が必要である。

②各種家庭訪問では、家族ぐるみで健康管理をしていく大切さを引き続きアピールしていく。

③がん検診の受診率を上げるために、がん検診の精度を高める検討を行い、市民のためにより良いがん検診を実施できるよう努めていきたい。

④「自分の健康は自分で守る」という意識が大事である。市民自らが進んで健康管理できるよう、様々なソーシャルキャピタルの活用を検討していきたい。

以上